

25期主題

…主イエスのまなざしと出会う…  
神さまに、隣人に、  
そして社会に仕える

# 「SDGs(エスディー・ジーズ)の理解を通して」 Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標

私たちは社会の一員としての繋がりを大切にしながら、さらに互いを知り理解を深めながら歩みを進めています。今期の私たちは、シリーズ SDGs=持続可能な開発目標を通して、「活動の今迄とこれから」を新しい視点をプラスして捉え直す取り組みをご紹介します。第167号ではSDGsの17の目標のNo.1,2,3「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」を取り上げます。



## 17の持続可能な開発目標から、一緒に考えましょう

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう            | 10 人や国の不平等をなくそう      |
| 2 飢餓をゼロに             | 11 住み続けられるまちづくりを     |
| 3 すべての人に健康と福祉を       | 12 つくる責任 つかう責任       |
| 4 質の高い教育をみんなに        | 13 気候変動に具体的な対策を      |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう      | 14 海の豊かさを守ろう         |
| 6 安全な水とトイレを世界中に      | 15 陸の豊かさを守ろう         |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に      |
| 8 働きがいも経済成長も         | 17 パートナリシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう    |                      |

目標1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」

女性会の取り組み情報などをお寄せください。

連絡先: 広報担当 Tel/Fax:095-800-2577 携帯:080-1782-5665メール:toranekobunko@lib.bbq.jp



現在 途上国は貧困や飢餓が深刻な課題となっていますが、私たちの社会・地域の身近なところにある「見えてこない」、「見過ごしている」大変なことには、どうやってアプローチできるでしょうか。  
ひとりができる、何人かができる、大勢ができる、教会ができること。やり方はきっと様々にあることでしょう。

住まいや教会の所在地の公的機関や民間NPO、NGO 関連団体、コミュニティ Cafe、地区の掲示板、インターネット、教会など生きた情報× 出会いの繋がり+αによるネットワークが「解決の糸口」へ導かれることを願い祈りつつ。  
-K.Y.-

## るうてる食堂クレヨン

「るうてる食堂クレヨン」は広島教会で、2021年10月より始まりました。子ども食堂という言葉が少しずつマスコミ等で聞かれるようになった頃です。まだ、コロナ禍ではありましたが、広島教会の階下にはルーテル保育所がありますので、まずは保育所の親子をターゲットにしてお迎えの後、教会に上がって来てもらいみんなで楽しく食事をしてもらおう事にしました。  
しかし、始めるにあたり材料は揃うの？ 働くボランティアさんは集まるの？ という、不安もありましたが、始めてみるとたくさんの支援を頂く事になりました。  
最初に支援をしてくださった方は全国のルーテル教会の方々でした。「お米をたくさん作っているので食べてください」「美味しいずらの卵があるのでどうぞ」「保存用のビニール袋を支援したい」等等。  
数か月たった頃には、広島教会のビルの中にあるアンデルセンさんが売り切れなかったパンの支援を始めてくれました。とっても美味しいパンを頂き、食堂に来る子

ども達も大喜びで食べていました。とても贅沢な支援でした。  
ある時、知人から「青梗菜の農家さんから、市場に出すために外葉を取るのだが、それを全部処分するので子ども食堂で使ってもらえる事はないか？」と問い合わせがありました。外葉といっても傷んだ葉ではなく、まだまだ新鮮な葉っぱです。その後、農家さんとの繋がりもでき助けてもらっています。  
今年の10月で「るうてる食堂クレヨン」は始めて丸2年になります。今では支援の輪は



## 立野 照美(広島教会)

広がり、知り合いの八百屋さん、お米農家さん、また企業の方と本当にたくさんの方々に支えられながら、月2回の食事作りをしています。  
食べるものを無駄にせず、食堂に来てくれた子ども達(大人)にも「残さず感謝して食べようね」と声を掛けています。これからもたくさんの親子、そして地域で一人暮らしをしているお年寄りの方など色々な方々が集まる「るうてる食堂クレヨン」を続けていきたいと思っています。



## むさしの☆フードパントリー

◆20年春「新型コロナウイルス感染症」の嵐が吹き荒れ「教会で礼拝が行われる」当たり前のことが、通用しない現実に直面し、コロナ禍による雇止め・失職者の急増を目の当たりにしながら、矢も楯もたまず、何かしなければと「日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会:奥田知志牧師(NPO法人抱樸理事長)のYouTube映像を伝道委員会内で共有・検討、役員会で「子ども食堂@教会」を提案しました。◆その後 教会所在地の杉並区社会福祉協議会、地域のNPO法人との出会いを通し「まずフードパントリーで地域の多子世帯・ひとり親世帯・孤立者の方々と繋がり、地域に開かれた教会を目指そう！」を合い言葉に課題面(事務・実働・協力者)

へは広島教会の立野牧師にもアドバイスを頂いたり、教会内外の協力者との協働で開催にこぎ着けました。  
◆学校が春/夏/冬休みに給食休止時のお弁当配食の他、11月で教会の食材配布は10回目を迎えますが、パントリーを通してCS夏祭り、4年振りの教会バザー&フェスタで地域のみなさんとの交流も増しつつあることは嬉しいことです。  
◆今回思いがけずベルリンフィル首席イングリッシュホルン奏者:ドミニク・ヴォッレンヴェーヴァー氏のコンサートのご案内を田園調布教会重永くるみさんから頂き、急遽、11/23(木・祝)の月例配食後教会で「子ども支援チャリティコンサート」が開催さ

れる運びとなりました。多くの来会者の出会いの場でもあります。  
◆そして地域のなかまの輪を広げながら、祈りつつ、困ったことや必要なことへの課題を少しずつ共に解消していきたいと願っています。

## 八木 久美(むさしの教会)



## 子どもの本をとおして「貧困について」を考える 廣瀬 美由紀(長崎教会)

『きょうはおかねがないひ』ケイト・ミルナー さく  
こてら あつこ やく / 合同出版



\*あまりに率直なタイトルでドキッとします。タイトル通りお金がなくて食べるものも買えない日に、フードバンクに行って食べ物をもらってくる親子が描かれています。一生懸命働いても子どもに満足に食べさせることができずに、フードバンクを利用

するしかないおおかさんの気持ちは？  
重いテーマなのに暗くならないのは、この親子がお金はなくとも楽しくできることを知っているから。お金がなくてもみじめなかわいそうな親子という印象は受けません。それでも、お金の心配をせずにすむようになればいいと読んでいて切実に思います。

この絵本はイギリスの作家によるものですが、巻末には日本の子どもの貧困が説明されているので身近に引き寄せて考えることができます。日本でもフードバンクや子ども食堂などの取り組みが増えていることは歓迎されるべきことかもしれませんが、それだけ困窮している人が増えているとしたらどうなのでしょう？ 同じ作者の『なんみんってよばないで』もぜひ手に取ってほしい絵本です。

『ふたり★おなじ星のうえで』  
谷川俊太郎 作/谷本美加 写真/  
塚本やすし 絵/東京書籍

\*インドの綿花畑で働く9歳の少女と、日本に住む9歳の少女。それぞれ写真とイラストで表現される二人の日常。同じ地球に住んでいても生活環境はまったく違います。それでもふたりはインド綿でつくられたTシャツ



でつながっているのです。  
私たちが身につけている綿製品。綿は日本ではほとんど栽培されていません。インドは世界最大の綿の耕地面積を誇りますが、同時に綿やその種子の生産地では、多くの子どもたちが劣悪な労働条件で働かされているのです。特に女の子は教育を受けるよりも、家族の生活を支えるために働くことを求められています。

『みんなはアイスをはなめている』おはなしSDGs 貧困をなくそう 安田夏菜 作 / 黒須高嶺 絵 / 講談社

\*日本の子どもは7人に一人が貧困と言われていますが、それは「相対的貧困」-生きるか死ぬかの飢餓レベルというわけではないけれど、同じ国、地域の人と比べて(相対的に見て)収入・資産が少なく、生活も厳しく不安定な状態-を指します。対して「絶対的貧困」は、どんな時代、どんな国での生活でも、人が生き延びるための絶対必要なもの(食料・衣服・住居など)が欠けている状態を言います。どちらも多くの場合、所得を基準として算定されますが、この所得の基準を「貧困ライン」と言い、これを下回ると貧困だということになります。



この本の主人公は、父親が失踪し、母親一人に育てられている小学6年生の陸と、3年生の美波。母親は介護のパートをしていますが、身体を壊して思うように働けません。給食費も学童保育のお金も払えず、お風呂は三日に一回。500円玉を持ってスーパーの総菜売り場に夕食を買いに行く二人。テレビに映ったやせこけた子どもたち、学校にも行けず働いている子どもたち、その子たちに比べたら自分たちは貧乏なんかじゃない！でも、本当にそうなのだろうか？と、陸は疑問を持ち始めます。

貧困について考えるのにぴったりな児童書です。子どもと一緒に読むのもいいですね。